

第5回福山駅前広場協議会 議事録

日時：2023年（令和5年）9月25日（月）16時～18時

場所：福山市役所3階大会議室

内容

●事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これより第5回福山駅前広場協議会を開催いたします。私は本日司会をさせていただきます福山駅周辺再生推進課の山田と申します。よろしくお願いいたします。では、開会にあたりまして、建設局長の市川よりご挨拶を申し上げます。

《開会挨拶》

●建設局長

本日は、お忙しい中、第5回福山駅前広場協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。福山駅周辺の再生をめざし、2018年3月にビジョンを策定し、これまでにリノベーションまちづくりや中央公園パークPFI事業、エフピコ RiM リノベーション再生事業、福山城築城400年記念事業など、駅周辺を魅力あるエリアとするため、様々な取組を官民連携で行ってきた。この取組の一環として、駅周辺の核となる福山駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合したウォークアブルな空間へと転換するため、2021年10月に本協議会を設置し、委員の皆様にご活発なご議論をいただいた。また、シンポジウムや市民アンケート、実証実験などを行い、市民の皆様からも多くのご意見をいただきながら、昨年度末に、「福山駅前広場整備基本方針」を策定することができた。今年度8月には福山城の遺構を生かした空間づくりについて検討を進めるため、分科会を開催し、協議会の委員に加え、文化財の専門家にもご参加いただき、活発なご議論が行われた。本日は、今年度初めての協議会となる。この協議会では、「福山駅前広場整備基本計画」の策定に向けた、今後の検討の方向性についてご意見を頂戴したい。引き続き、皆様による活発なご議論をお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、清水座長からご挨拶をいただきたいと思います。清水座長、よろしくお願いいたします。

《座長挨拶》

●清水座長

駅前広場の議論は佳境に入りつつある。これまでの議論はきちんと組み立てられてきた。めずらしいケースだと思う。参加者と事務局が歩調を合わせながら、議論がきちんと行われ

てきたということだろう。8月末の遺構の議論もとても有意義だった。しっかりとした形で物事が進んでいくということはとても気持ちが良いもの。本日も皆さんから、活発なご意見をいただきたいと思う。どうぞよろしく申し上げます。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、本協議会の委員のご紹介です。本来なら、お一人ずつご紹介させていただくところですが、限られた時間ですので、お配りしております名簿をもって代えさせていただきます。なお、事前にお伝えさせていただいておりますが、今回の協議会より株式会社グルーヴデザインズ代表取締役であり、ほこみちプロジェクトディレクターでもあります三谷繭子様に委員としてご参加をいただいております。三谷様は、道路の活用の可能性をひろげていくため、国土交通省が取り組んでいる、「ほこみちプロジェクト」の推進に尽力されております。これから駅前広場を検討していくにあたり、運営方法など公共空間をどのように活用していくのが大切であることから、この度の協議会よりご参加をいただいております。よろしく願いいたします。次に、本日の進行及び配布資料について、ご説明いたします。本日の議題は、「福山駅前広場整備基本計画の策定に向けて」です。後ほど、事務局から説明を行い、その後、委員のみなさまによる意見交換を行っていただきたいと思っております。次に配布資料についてです。資料1は本日の出席者名簿、資料2は福山駅前広場整備基本計画の策定に向けて、資料3は福山駅前広場における遺構を生かした空間づくりについて、資料4は福山駅前広場の使い方について、資料5は福山駅前広場における自転車動線について、参考資料1は福山駅前広場協議会分科会（遺構を生かした空間検討）の概要、参考資料2は福山駅前広場整備基本方針になります。それでは、これより福山駅周辺再生推進課の村上から説明をいたします。

《事務局説明》

●福山駅周辺再生推進課長

資料2から資料5について、順に説明させていただきます。

まず、資料2をご覧ください。昨年度、基本方針を策定しました。今後、基本計画を策定するにあたり、今後の進め方について説明します。1頁をご覧ください。まず、これまでの検討状況について、続いて、検討の進め方について、最後に基本計画の内容について説明します。まず、これまでの検討状況について。3頁をご覧ください。2018年に福山駅前再生ビジョンを策定、2020年にはビジョン実現に向け福山駅周辺デザイン計画を策定しました。デザイン計画では福山駅周辺をウォーカブルな空間へと転換していくこととしています。4頁をご覧ください。駅周辺をウォーカブルな空間へと転換していくにあたり、駅周辺の核となる駅前広場の問題点や課題を考えるため検討を開始しました。5頁をご覧ください。駅前広場の検討にあたっては、多様な関係者から意見を聴き取りながら検討を進めてまいりました。6頁をご覧ください。会議やアンケートで意見を聴取し、実証実験による検証も行い、2022年度に福山駅前広場整備基本方針を策定しました。

7頁をご覧ください。駅前広場の再編の目的は、駅周辺を市内外から人や企業を惹きつける魅力あるエリアに変えるため、その核となる駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合した居心地が良く歩きたくなる空間へと転換することです。8頁をご覧ください。駅前広場整備の検討にあたっては、使いやすさ・過ごしやすさ・安心感・福山らしさといった利用者目線の価値を大切にすることとしています。9頁をご覧ください。基本方針では6つの課題解決の方向性と今後の検討項目を整理しています。10頁をご覧ください。各機能の配置計画として、まとまった広場空間を東西に分散配置する案（C案）を基本にしつつ、全面広場化する案（D案）の実現可能性を検討していくこととしています。次に検討の進め方についてです。12頁をご覧ください。事業の段階についてです。基本方針以降、基本計画、調査・設計、施工、完成、管理運営という段階があります。スケジュールは2023年度に基本計画（素案）を示し、2024年度に基本計画を策定、2025年度以降、調査・設計・施工という流れを予定しています。13頁をご覧ください。次に計画のプロセスについてです。デザイン計画や基本方針にも示す通り、駅前広場の利用者が駅前広場でどのような活動をしたと考えているのかを把握し、多様な関係者と連携しながら、計画を検討していくプロセスが大切になります。そのため、広場を運営する人の考えを踏まえて、広場つくるためには、設計段階の前に運営する人を決める必要があります。14頁をご覧ください。広場を運営する人と共に、駅前広場の設計を行うことを前提にしつつ、基本計画の検討を進めてまいります。次に基本計画の内容についてです。16頁をご覧ください。基本計画には、施設計画・動線計画・景観計画・運営計画の4つの項目に沿って計画を定めます。基本的には、基本方針に示した6つの方向性に沿った検討内容が4つの計画に分類されていきます。17頁をご覧ください。まず、施設計画です。主に、交通施設や休憩施設・修景施設などの各施設について検討します。ただし、施設の選択・配置・設計については、運営事業者とともに設計段階において検討することを予定しています。下線部で示している箇所がそれを表しています。なお、交通施設の施設数や配置場所などについては、引き続き、交通に係る分科会で議論しながら、方向性を協議会でご報告したい。18頁をご覧ください。次に、動線計画です。主に歩行者や車両の動線、交通規制の変更などを検討します。本日は、駅前広場における自転車の動線について意見交換を予定しております。19頁をご覧ください。次に、景観計画です。主に、居心地の良い空間や遺構を生かした空間など、空間全体のデザインについて検討します。遺構を生かした空間づくりの方向性について、本日、意見交換を予定しております。なお、イメージを共有するため、協議会などの意見を踏まえて、整備計画のイラストを作成予定です。20頁をご覧ください。次に、運営計画です。主に、広場の使用・運営・管理の方向性について検討します。広場の運営に関する方向性について、本日、意見交換を予定しております。

続いて、資料3をご覧ください。福山駅前広場における遺構を生かした空間づくりについてご説明します。1頁をご覧ください。本市には、福山市歴史文化基本構想という基本構想があり、文化財の保存・活用の基本方針として、3つの項目が示されています。1点

目、「文化財の調査と価値の共有」。地域に存在する文化財に地域ならではの価値を再発見・再認識し、大切にすること。2点目、「文化財の価値の顕在化とまちづくり」。関連する文化財をつなぎ、福山ならではの歴史文化の価値や魅力を高めること。また、周辺環境を含めて、文化財を守り、活かし、文化の薫り高い地域をつくること。3点目、「文化財を守り、活かし、伝える仕組み・体制づくり」。市民等の理解と協力、参加・協働を進め、文化財を保存・活用することなどが示されています。この基本方針は、福山駅前広場の遺構の保存活用の方向性を検討するうえで、ベースになる方針です。2頁をご覧ください。次に、史跡福山城跡の本質的価値についてです。第1に日本城郭の最高到達点に位置する巨大な城であること。第2に山を造成した三段の総石垣であること。第3に伏見櫓等の現存建物の希少性や貴重性です。3頁をご覧ください。福山城は全国でも有数の城郭を有したことから、現在でも駅周辺の地下には、多くの遺構が埋まっていると推測されています。図の黒枠のあたりが、現在の駅前広場がある場所となります。4頁をご覧ください。続いて、駅前広場に埋まっている主な遺構についてです。駅前広場には御水門跡や二重櫓台跡、舟入跡、外堀跡などの遺構が埋まっています。左図で示す位置は推測であり、正確には発掘調査などが必要となります。右の写真は2008年の発掘調査の際の写真で、この際、二重櫓台跡や御水門跡、舟入跡などが確認されています。5頁をご覧ください。続いて、道路計画を踏まえた活用場所についての検討です。現在、駅前広場の検討状況として、広場空間の配置はC案とD案が示されています。C案の場合、広場内に道路が縦断することとなります。この図では赤線がそれを示しています。D案が実現できた場合は、広場内に赤線で示す道路はなくなるため、C案よりも広いスペースが確保できると思われれます。遺構の活用場所は道路構造やその他の施設配置、歩行者動線を踏まえて検討する必要があります。ここでは、C案の場合の二重櫓の復元場所や外堀遺構を復元できる場所の可能性についてご説明します。茶色の線が、石垣が埋まっていると想定されるラインです。赤色の線が、道路の計画ラインです。道路構造については、概ねこの位置くらいに道路が整備されることを想定しています。緑色の線が、現在石垣を復元しているラインです。推測ですが、現在の地表面からおよそ1.0m程度の深さに残存する石垣の天端が埋まっていると思われれます。青色の構造図は地下送迎場の平面を示しています。整備においては、道路以外にも様々な施設が配置されることとなりますが、現時点では詳細なことが検討できていないため、その点はご了承ください。まず、二重櫓の復元場所については、左図をご覧ください。黒線は二重櫓が存在していた概ねの場所を示します。場所の検討においては、道路構造との離隔や歩行者動線の確保が課題となります。C案の場合、二重櫓の復元場所は縦断する道路（赤線）と近すぎることから、当時の場所に再建することは難しいと考えられれます。次に、外堀遺構の復元場所についてです。外堀遺構の復元場所の検討においては、道路構造や地下構造物、歩行者動線などと重ならないように検討しないといけません。想定ではありますが、C案の場合、概ね黄色で示す箇所は、縦断する道路と重なるため、復元が困難となります。従って、C案の場合、活用場所は限られると思われれます。一方、D案が実現出来れば、ある程度のスペースの確保が可能になることが想定さ

れます。こちらも施設配置や歩行者動線にもよりますが、C案よりはD案の方が活用場所は広がることとなります。6頁をご覧ください。8月30日に開催した分科会の検討内容についてです。分科会は協議会の委員に加え、福山市文化財保護審議会の会長と副会長にもご参加いただき、開催いたしました。主な意見として次のような意見がありました。駅前には交通結節機能は必要だが、福山らしさを表現することも必要。福山城の遺構を生かすためにも全面的な広場化をめざすべきという意見。福山城は天守閣だけを指すのではない。福山城の中に駅があるという意識に変えていくべき。駅舎の南側に福山城の遺構を表現できれば、福山城の中に駅があるという意識が変わっていくという意見。文化財は史実に基づいた科学的根拠のある復元が必要。そのため、本物を残す、史実に基づかないものはつukらないという基本姿勢を示すべきという意見。継続的に研究を進め、史実が明らかになった際に、遺構を復元するなど、駅前広場整備を時間軸を持って進める方がいい。石垣を中心にランドスケープを造り、まずは城郭の中だということが伝わるようにするという意見。外堀と内堀のレベル差をデザインしたり、堀とそれ以外の素材を変えるなどのデザイン。水を張ることは、水の管理や転落などの安全面に問題があるなどの意見。二上り踊りやとんどなど、ソフトとハードの両面を生かした使い方などの意見がありました。こうした検討内容を踏まえ、本日は現実的な遺構の活用方法についてご意見を伺いたいと考えております。本日は、事務局から全ての説明が終わった後に、論点について順に意見交換を行っていただきたいと考えております。

続いて、資料4をご覧ください。福山駅前広場の使い方についてご説明します。1頁をご覧ください。以前、協議会でご紹介させていただいた駅まちデザインの手引きの一部をお示ししています。これからの駅まち空間の作り方に係る方向性について、令和3年に国交省が駅まちデザインの手引きを公表しています。参考として、駅まちデザインの手引きには、駅まち空間の運営に関しては、利用者目線でそれぞれの管理区分を超えて、一体的な管理・運営を行うことが望ましいと示されています。また、計画・事業化段階だけでなく、運営段階においても、関係者間で連携し、可変的・多目的な活用を行うことが望ましいとされています。2頁と3頁には、D案とC案の場合の使い方の案を概念図で示しています。ここでは、駅前広場に生み出す人々が集い・憩い・くつろぐための広場のことを「交流広場」と呼ぶこととしています。歩行者の動線を確保するため、東西の端には歩道を確保。三之丸町や伏見町の沿線と歩道との一体的な空間活用が図られつつ、中央に交流広場が配置されるイメージを示しています。3頁をご覧ください。C案の場合、両端の歩道と縦断する道路を除いた部分が交流広場になるイメージを示しています。4頁をご覧ください。次に、交流広場の運営に関する方向性の案です。冒頭にご説明したとおり、運営事業者を求めるにあたり、事業の目的や交流広場の役割、整備・運営・管理の方法について叩き台を示しています。事業の目的は、備後圏域、また瀬戸内地域の玄関口としての価値向上や広場周辺のエリア価値向上、市民の愛着・誇りの醸成です。交流広場の役割は、広場で出会う人や情報を通して、ふくまちエリアや備後圏域、ひいては瀬戸内地域の価値・魅力を発信すること。居心地の良い空間づくりやその活用によって広場への来訪・滞

在者を増やすこと。福山城遺構の歴史的な価値を伝える象徴となることです。広場の運営管理については、広場周辺の店舗などと連携した広場空間の活用や地域の価値・魅力を効果的に発信するなど、ふくまちエリアや備後圏域の再生・発展を見据えたまちづくりに関する新たな発想やノウハウが必要と考えています。そのため、こうした発想やノウハウに長けた民間事業者と連携しながら、交流広場の運営管理を行っていきます。運営管理を見据えた設計・施工ができるよう手法を検討。サウンディングでの意見も踏まえて検討します。求める事業者像は、敷地主義ではなくエリア再生の視点を持つ。企画力や多様な人のネットワークを持つ。エリアの価値を高めることへの動機がある。遺構の歴史的な価値や市民の思いを理解し、それらを尊重した広場活用ができる。そうしたことを考えています。スケジュールは、2024年度サウンディング、募集要項検討、公募・選定を行い、基本計画を策定、2025年度以降、駅前広場整備の設計を予定しています。5頁をご覧ください。本日は、4頁に示す交流広場の運営に関する方向性についてご意見を伺いたいと考えております。

続いて、資料5をご覧ください。福山駅前広場における自転車動線についてご説明します。1頁をご覧ください。本市では、自転車の利用環境を整備し、安心・安全で快適なまちづくりのなかで、自転車の利用促進を図るため、人と自転車、自転車と車が共存した自転車文化や社会が実現された「自転車の似合うまち福山」をめざす将来像に掲げ取り組んでいます。2頁をご覧ください。福山駅を中心とした概ね5km圏域の通勤・通学などの日常生活での利用を対象とし、主要施設に繋がる平野部を計画エリアとして設定。駅前広場を終点とするネットワークが複数あります。3頁をご覧ください。駅前広場につながる、福山駅箕沖幹線、福山駅旭町線などの道路の自転車の交通量が多くなっています。4頁をご覧ください。現在の駅前広場の歩行者と自転車の動線についてです。現状、車両通行規制はなく、自転車が自由に走行できるようになっており、歩行者と自転車の動線が交わると思われる箇所が複数存在します。5頁をご覧ください。JR福山駅は尾道市の戸崎港までを結ぶ、ふくやまサイクリングロード「しおまち街道」のスタート地点にもなっています。そのため、駅を利用するサイクリストのため、地下送迎場には自転車組立場を設置しています。6頁をご覧ください。自転車駐車場の配置についてです。現状、駅の東西に無料が6箇所、有料が1箇所あります。7頁をご覧ください。駐輪の状況についてです。駅西側は需要が収容台数を超えています。南側は路上駐輪の発生が見られています。駅東側は供給量が上回っています。なお、集客施設や商業施設を目的とした駐輪については、短時間で直近での駐輪が求められるため、各施設での駐輪スペースの確保が基本的な供給のあり方と考えています。その他、時間の都合上、一部割愛します。10頁をご覧ください。駅前広場整備に係る自転車の課題を整理すると、歩行者と自転車の動線分離、駐輪スペースの確保、サイクリングロードの起点としての機能確保が挙げられます。11頁をご覧ください。ここから、自転車動線の考え方についてご説明します。一つ目は通行帯の明示による歩行者と自転車の分離をしながら、駅舎正面と交流広場を車両進入禁止にする案です。自転車の利便性のある程度、確保できるものの、駅前広場内での歩行者との分離に

課題が残ります。12頁をご覧ください。2つ目は、ほぼ全面的に車両進入禁止にすることにより、歩行者と自転車の分離を図る案です。13頁をご覧ください。本日は、11頁～12頁に示す叩き台を参考にしながら、歩行者と自転車の分離や、自転車の安全性・利便性、駐輪スペースやサイクリングロードの起点としての機能確保などについて、意見を伺いたいと考えております。事務局からの説明は以上です。

《意見交換》

●清水座長

意見交換に入りたい。まずは遺構を生かした空間づくりがテーマになる。意見のある方は挙手をお願いします。

●渡邊一成

福山駅前広場整備基本方針の15頁をご覧ください。議論をするうえで大事なことが示されている。福山駅は東西に400mある長い駅。駅前広場が議論の対象になっているが、駅前広場だけを議論しては行き詰ると思う。東西に長い駅の特性や北口広場や周辺エリアとの連携などをトータルで考えないといけない。大事なことは、駅前広場の機能を広場外に分散させることができるのではないかとこの共通認識を持つこと。駅前広場には交通結節機能も必要だが、是が非でも、それは駅前広場にないといけないのかと考えると、別の方法もあるのではないかと思う。そうした考え方を持って、交通の分科会ではこれまで議論を行ってきた。そうした議論の中でD案という案が検討されている。

事務局から福山城は天守閣だけでないという説明があった。確かに広い城郭が形成されている。駅前広場は城郭の一部であり、城郭をベースにして現在の市街地が形成されてきたということが共通理解になればいい。シンボリックな駅前広場にするためにも、遺構が大事なのではないかと考えている。

●西村浩

遺構を残すことが大事だと考えている。福山ならではの駅前をつくるということは個性をつくるということ。人口減少の時代に地方都市が選ばれていくためには必要なこと。個性がなければ、都市の大きさや利便性などだけで選ばれるような、競争の舞台に乗らないといけなくなる。遺構の復元を念頭に、駅が城の中にあることを徹底的に追求してつくるのが、福山が選ばれる理由の一つになっていくだろう。C案とD案という話がある中で、D案をめざす方が福山ならではの駅前をつくることにつながると思う。

D案の場合、バスを駅前広場外に移さないといけない。以前から伏見町や北口広場にバスターミナルをつくれないう議論があるが、やはり、北口広場にもっていくのが一番進めやすいと思う。北口広場は市とJRしか関係者がいないので伏見町よりも合意形成を図りやすいだろう。バスは北に行くことになるが、北口広場なら直接、駅と結節でき、雨にも濡

れない。タクシーも一緒に結節すれば良いと思うし、駐車場も併設できれば、自家用車の結節も向上するだろう。それと同時にJRの商業とも直結していく。非常に利便性が高まるだろう。そうすれば、バスターミナルがウォークアブルなまちの起点となっていくと思う。北口広場にバスターミナルを建設する場合、北側の景観を一緒につくれることもメリットになるだろう。バスターミナルから福山城が良く見えるテラスやレストランなども一緒に作れると思っている。商業振興や景観、交通の問題を同時に解決する絶好のチャンスだと思う。バス事業者が心配しているように、南側から来たバス利用者が南側で早く降りたいという要望もあるだろうから、駅の南側、例えば、伏見町のあたりに降車場を配置できると良いだろう。駅にバスターミナルが直結する事例は最近増えてきている。商業振興や交通結節、景観という視点で、色々な先進地を視察する機会をもって、みなさんが納得しながら進めることが出来れば良いと思っている。

●福山市身体障害者団体連合会

バスについては、駅を出てすぐに分かる場所にバス乗場がないと市外から訪れた人にとって難しいだろう。

遺構については、事務局から説明があったように、史実に基づいた活用をしてもらいたいと考えている。堀に水を張ることが危険という説明があったと思うが、水を張らなくてもよい、別の方法がないかとは思った。

歩者分離の問題については、視覚障がい者と車いすの利用者が困っている状況。本通りのような工夫をすれば、点字ブロックを設置しなくても自転車と歩行者の分離は可能だと思う。難点は色。よく緑色で色分けされているが、視覚障がい者はほとんど識別できない。自転車の利用者も守らない状況。ベテランになれば、白杖で探れば感触である程度分かるようになるが、少し工夫をしてもらいたいと思う。

駅前の運営については、商店街の営業をやっている人たちなどを交えて、協議会などをつくったらどうかという案なのか分からないが、話し合いをしながら進めてもらえれば良いと思う。

●建設局参事

遺構について、先ほど、必ずしも水を張らなくても、お堀のイメージが感じられるようにできないかというご意見をいただいたと思う。8月30日に開催した遺構の分科会では、水を張ると管理や安全が問題になるというご意見をいただいた。ただし、外堀と内堀のレベル差など、城郭の特徴を感じられるようにデザインすると良いというご意見もいただいた。先ほどのご意見も貴重なご意見として参考にしていきたい。

歩車分離については、歩行者や自転車の安全性の確保は必要になると考えている。色分けでは難しいというご意見だったと思う。今後の参考にしていきたい。

運営については、去年11月に2週間ほど駅前広場で実証実験を行った。休憩や子どもの

遊び場、物販スペースとして使われる想定をしていたが、実際に広場が使われだすと、音楽の演奏やヨガなど色々な使い方をしたいという要望が出てきた。行政が使い方を決めるような発想は古いと感じている。運営において、大事なことはルールを決めることだろう。例えば、ヨガのとなりで大きな音で演奏が行われたりすることは良くないだろう。駅前広場を整備したら終わりではなく、どのように運営していくかは整備後も考えていかないといけないことだと考えている。

●広島県東部観光推進協議会

誘客という観点で発言をさせていただく。遺構の活用については、県外の方と話をする機会が多いが、ほとんどの方が駅からお城が見えるところだと言われる。地元の方は気づいていないかもしれないが、非常に大きなポテンシャルがあると思っている。そういった意味では、城の中に駅があるという発想はとても良いと思う。全国色々な広場がある中で、福山ならではの価値を創出できると思う。福山城の中に天守閣があり、駅があり、駅前広場や北口広場があるというコンセプトの中で、それぞれのエリアで様々なアクティビティが散りばめられているという状況になれば、県外の人呼び込むことができると思う。観光面でいうと、インバウンドやいわゆるZ世代の方々というのは、単に観光地に行き、見学して、食事をして帰るだけではなく、それぞれの土地の現在に至るストーリーに価値を感じられる方が多い。その価値に共感することによって、その土地に行きたい、物を購買してみたいというような動機につながる傾向があると言われている。お城のあった時代から引き継がれている文化や伝統工芸、食べ物など、色々あると思うが、ストーリーを整理して、整備に取り入れておくと、より魅力的な空間になると思う。

●三谷繭子

本日から参加させていただくことになった。簡単に自己紹介をさせていただく。福山生まれ、福山育ち。その後、まちづくりや都市計画、都市デザインという分野で、全国の地域を支援することを仕事としてきた。この度、Uターンで福山に帰ってきて、福山の顔となる福山駅前広場を良くしていくことに携われることを嬉しく思っている。

遺構については、事前に検討内容を拝見した。石垣を中心にランドスケープをつくっていくことやゆっくり作っていくこと、子ども達に関わっていくことなど、素敵なキーワードが出ていると感じた。私が学生のときに、駅前の再整備に伴って、遺構の議論が行われていた。周りから見ていると、遺構を歴史的な景観として、はっきりと残すか残さないかという議論に見えた。今後は、若い世代も遺構のことをポジティブに捉えられる議論やデザインにできると良いと思う。駅前広場だけでなく、駅周辺が城の中にあるという捉え方をしながら、都市の中でさり気なく遺構を見ることができると整えることができれば、人々がなじみやすく、使いやすい広場になっていくのではないかと感じた。私は市外から訪れた人とまち歩きをする際に、古地図を見ながら、歴史的な遺構などを案内したりすることがある。遺構

を見つける面白さは、まちの楽しみ方の一つになると思う。

自転車の動線について。私は駅周辺に住んでいて、3歳になる子どもを育てている。ちょろちょろと動き回る子どもを駅前に連れてくる場合、駅前広場は一番早く通り過ぎたい場所になってしまっている。自転車もそうだが、色々な交錯がある場所なので、子どもが安心して歩ける場所ではない。子どもが疲れたときに休む場所もない。子どもだけでなく、大人にとっても自転車との交錯は危険だと思う。自転車の動線をはっきりと分離して、歩行者が安全に通行できるような状態になると良いと思う。サイクリングロードのこともあるだろうが、日常交通として自転車をどう位置付けるか、サイクリングロードのことも紐づいていく、今後の議論になると思う。

広場の運営について。大事なことは広場の理念をどのように通していくか。一貫した理念が運営や設計に反映されるべきだろう。今後、事業者選定において、運営者のみを決めていくのが良いのか、設計者も併せて決めていくのが良いのか。今後のスキームに関わってくる部分になる。ちょっとした休憩や居心地良く過ごすことができるような「目的なく使うデザイン」やイベントなどアクティブに使うことができるような「目的をつくるためのデザイン」を上手に作っていくことが必要だと思う。そのためには、運営者と設計者がチームになるような体制づくりが求められると思う。

●福山市商店街振興組合連合会

D案を前提に話をさせていただく。福山駅前広場の現状は交通結節機能が高くなっていると思う。今後、都市の特徴をアピールしていくためには、全面的な広場としながら、福山城の遺構を上手に融和させていくと良いだろう。先日、分科会の意見を聴かせていただいたが、遺構については正にその通りだと感じている。時間をかけながら、史実に基づいた復元を行い、可能な限り遺構を生かしていくという方向性だった。遺構をあまり出し過ぎると広場の機能が制約を受けてしまうと思うので、分科会で示された方向性が良いと思う。

D案の場合、バスをどこに移すのかということになる。それがないと前には進まない。個人的には北側が良いと思う。北側では堀端公園や丸之内公園も可能性があるのではないかと。南側では伏見町やさんすての南側の可能性があるかもしれないが、景観的には北側が良いと思う。D案を選択する場合、相当の投資が必要となるだろう。地下送迎場と地下駐車場を接続する検討も進んでいると思うが、地下を接続することができるのであれば、是非接続してもらいたい。当初、地下送迎場は2,000台程度/日の利用を見込んでいたが、実際は800台程度/日の利用しかないと思う。送迎場の機能を拡大して使いやすくすることも考えてもらいたい。地下にショッピングセンターなどを入れれば魅力が高まるかもしれないが、現状の都市のレベルからするとテナントの募集は難しいように感じる。であるならば、地下駐車場の機能を拡大することや地下に駐輪場を設置することを考えてはどうか。駅の東西に駐輪場はあるものの、収容台数や駅との距離のことを考えると、地下を利用することは有効ではないかと思う。

車両の動線については、自家用車も自転車も駅前広場に入れない方が良さだろう。そうしないと、広場としての安全性が向上しない。可能であるなら、伏見町や三之丸町にも自転車を入れない方が望ましいと考えている。今後、集客施設をつくる時は、必ず駐輪場を設置するようにしていただきたい。路上駐輪が多いので、施設側が責任を持つべきだろう。

運営について。例えば、富山のグランドプラザは公設民営で行われている。以前、視察した際には、1年通して100%の稼働だと説明されていた。素晴らしい運営をされていると思う。運営やイベントのことを考えると、運営事業者は公募などで決めていった方がいいと思う。

お城の中に駅舎があるという話は以前から思っていたこと。可能であれば、JRの駅舎をお城の景観にマッチするようなデザインに変えていただきたい。

駅周辺の中央をウォークアブルな空間に変えると同時に、中央から東西南北に人が動いていく仕掛けを考えていかないといけない。北側にはお城があり、西側にはiti-SETOUCHIや三の丸公園、南側には中央公園のパークPFI、東側には伏見町やおおり町ストリートガーデンがある。そこを結んでいくためには道路が機能しなければいけないと思う。

過去に福山青年会議所が「ふくやまハートピア21」という構想を発表した。福山の特徴の一つである外堀と福山港をつなぐ入川を天下橋や木綿橋を含めて復元するという構想だった。福山は城下町だった場所。なんとか入川を復元できれば、築切のところから市立大学までがつながる、更に手城川からも融合していけるのではないかと思っている。

●三之丸町町内会

「ふくやまハートピア21」は自分が副理事長の時に作成したもの。瀬戸内の中核都市福山がコンセプトになっている。未来においても、この都市はそうしたポテンシャルを秘めていると思っている。

先日、分科会に参加した。15年前に本格的な二重櫓の復元をテーマに署名を集めた。約12万人の署名が集まった。築城400年の際、本格的な天守閣を造ってもらいたいと思っていたが、これについては文化庁の許可をもらって鉄板張りが実現できた。これは価値があると思っている。それ以外にも、一番櫓や西側の石垣も再建しようと思えばできたと思うが再建されず残念だった。駅前広場の二重櫓は史実に基づいたものを造ってもらいたい。先日の分科会では、C案の場合、道路計画を踏まえると二重櫓の復元が難しいという話だったが、重なるわけではないので、技術的には避けることはできると思う。分科会の議事録を拝見すると、この度の再編に伴った二重櫓の復元については、史実に基づく根拠を積み上げ、みなさんの意見を聴きながら時間をかけて復元するという方向性で整理されようとしている。

現在の駅前広場を整備した際に、地下送迎場の進入口にあった石垣は別の場所で保管されていると思うが、現在、その石垣がきちんと管理されているのかを確認してもらいたい。

●福山市バス交通利用促進協議会

バス事業者の観点で発言をさせていただく。福山城の遺構については、生かしていくべきだと思っているので、後世に残るものを造って頂きたい。

D 案をめざすにあたって、北口広場へバスターミナルを配置する意見が出ているが、バス利用者のことも考えていかなければいけない。バス利用者は健常者ばかりではない。交通弱者も多い。駅とバスの結節のことだけを考えるのではなく、買い物などの目的地のことも考えなければいけない。現状では南側に店舗が集まっている。グリスロなどのモビリティのことも含めて動線を考えた方がいい。北口に配置する場合、南側に降車場を配置することも考えていかなければいけない。バス利用者が使えないものになってはいけませんと思う。

●広島県バス協会

駅前を活性化させるために広場をしっかりと活用すると同時に交通結節点としての機能もより高め、エリアの魅力を高めていくことはまったくその通りだと思っている。先ほどの意見にもあったように、交通弱者をいかに守るかが大事だと思っている。現在、政府は子育ての施策を推進すると言っている。公共交通がないと、学生は学校に行けない、高齢者は買い物や病院に行けないということになってしまう。カーボンニュートラルやグリーントランスフォーメーションという観点からも公共交通の重要性が高まっていくのは明らか。我々は交通結節点機能を低下させてはいけませんと考えている。今後どうすればいいか。バスターミナルが一番良いと思っている。北口に造ることは安全性や利便性からどうなのかと思っている。できれば、伏見町の再開発と併せて、造ってもらった方が便利だと思っている。現状、バスやタクシーは駅前広場をかなり広く使わせていただいている。相当の資産価値がある場所だと思っている。これが移転するわけなので、それに匹敵するくらいの投資をしてももらえると勝手に思っている。

明治36年にバスが京都で走り出して、今年で120年。バス事業はコロナ禍により、戦後、最大の危機を迎えた。人流抑制でお客様がいない中、エッセンシャルワーカーと言われながら、バスを走らせた。この3年間の赤字は非常に大きく、簡単には取り戻せない。更に人手不足や燃料高騰が重なり、非常に厳しい経営状況に陥っている。バスの最大の使命は安全。DXなどに積極的に取り組むと同時に、生産性を上げることで、いかに事業を継続させるかを考えている。どうぞ皆様にバスを利用していただき、公共交通が存続できるようにご協力をお願いしたい。

●株式会社築切家守舎

分科会にも参加させていただいた。やはり福山ならではの駅前広場を造るためには、全面広場が良いと思っている。議論を聴いていると、そういう方向に進んでいることは大変良いことだと思っている。ちょうど、この会議の前に伏見町の役員会があった。伏見町の西側の歩道のところにお店を出して道路を使おうとしているが、なかなか上手くいっていない。駅前

広場が公園のようになれば、活性化するのという話が出ていた。協議会の検討状況を聞かれたので、全面広場化のことを伝えたら、それは良いことだという話になっていた。恐らく、全面広場化ということになれば、伏見町も協力しながら、まちづくりが出来ると思う。もう一つは船町商店街。私はそこの役員も務めている。そこでも駅前広場がどうなるのかという話が出ていた。検討状況を伝えると、全面広場化はとても良いですねという話になっていた。駅前に人が溜まって、そこから人が周辺へと流れていく。商店街の活性化にもつながるので、全面広場になれば嬉しいという意見が出ていた。課題は色々あるだろうが、駅前が全面広場になり、お城の中の広場みたいな雰囲気になって人が集う場所になる。それが活性化につながると思う。

バスターミナルという話が出ている。分科会でも三宅会長から伏見町にバスターミナルを造ってもらいたいという意見が出た。課題も多いが、伏見町として、都市再生推進法人としても協力していきたい。伏見町はまちづくりへの意欲がある。若いプレーヤーも出てきている。そういう方たちと一緒に全面広場にするためにはどうすればいいかを考えていきたい。

●伏見町町内会

伏見町の不動産価値は低下している。団体のバスで多くの人を呼び込んでいてもらいたい。是非バスターミナルを検討してもらいたい。

●福山商工会議所

駅前が素敵な広場になれば新しい魅力が生まれる。市民に愛されるものになっていく可能性があり、そこに向かって皆で知恵を出していけばいいと思う。

遺構について。文化財との共存は言うのは簡単だが、行うのは非常に難しい。お城は攻められにくくするために、曲がり角や段差などの構造上の特徴があるもの。過去に三浦先生を中心に作成された福山城の再現 VR はかなり正確に作成されていた。下手に復元を行うと、バリアフリーから少し遠のいていく場合もある。もし、復元するのであれば史実に基づいた忠実な復元が良いだろう。そうでないのであれば、史実に基づいて再現 VR を作成し、駅前広場で大きなスケールで投影すれば歩いて楽しめるような瞬間が生まれると思う。

●広島県タクシー協会東部支部

城と一体型という話はとても面白いと思う。人が集まるまちづくりをどう作り上げていくかをしていかない限り、福山駅で降りていただけないという状況になっていると思う。現在、色々な協議会に参加しているが、同じような課題について議論している印象。行政内部でも連携をしてもらいたい。課題解決にはデジタルという手段が必要になってくると思う。歴史をデジタル化して見せる方法もあるだろうし、今あるものを上手に生かす方法もあるだろう。まずは、ストレス無く過ごせるような駅前のまちづくりを考えていくことが大事。

その上で交通の結節を考えていく。最近では、グリスロ以外にもキックボードなどのモビリティが増えてきている。ゾーン6という考え方も出てきた。電動車いす位のスピードの車両。そういう車両に対して、上手にバスやタクシーを結節させて乗り継いでもらうということを考えていくと面白いと思う。北口や南口、商店街など、各エリアで担当部署が違えばバラバラのまちづくりになってしまう。これを一体化しつつ、デジタルで解決していかないと上手くいかないだろう。そこには自動運転も関わってくるだろう。我々、運輸業に関わる者は乗務員や規制などの様々な問題に対処しながら、人が集まる環境をつくりつつ、バスやタクシーを利用して頂けるような新たな交通環境を作っていくといけない。そのためには、駅前開発と共存をしながら、歴史と未来をつなげていくようなまちづくりに協力していきたいと考えている。

●西村浩

お話を聴いていると一番のテーマは結節だと感じた。交通の結節、人と人の結節、障がいを持った人も結節できるような環境をまちの中にどのようにつくっていくかということ。バス事業者が仰る通り、交通結節を強化することは一番のテーマだと思う。仮に北口広場にターミナルができれば、バリアフリーの観点でも雨に濡れずにスムーズに乗れる、そして、近い距離でバスやタクシーに乗れるなど乗り換えの利便性が高まる。更に商業と結節させれば、乗り換えの待ち時間にコーヒーを飲みながら待つこともできるだろう。南側から北口に向かうとバスの走行距離が長くなるという話があるが、利用者にとっては快適性や利便性が高まるものだと考えている。南側に降車場を配置すれば交通結節も確保できる。

遺構について、城の特徴である段差の話が出ているが、少しずつ下がるイメージだろう。緩やかなスロープをつくりながら、ほとんどフラットな環境を整えることで、遺構の活用と広場の利活用が共存できると思う。そこをめざすべきだろう。

そして、その広場をどのように運営するか。一番のポイントは結節を促すために境界を無くすこと。伏見町の道路上の屋台が使われていないという話があった。広場ができて境界が無くなると、商店街と一体となって使える。旧キャスパ跡地の開発も同じ。民地と広場の境界を越えて活用できるとか。JRと市の境界を越えて、JRと協力しながら一体的に活用するとか。一体運営をどのようにマネジメントするかがテーマになる。市民がまちを自由に歩くときに境界を感じない状態が良い。デザインや運営、事業者の協力関係において、その課題を超えることをめざした方が良い。

日常的にはゆっくり過ごせる、一人でも使える広場になった方がいいと思っているが、駅前の玄関口なので情報発信の場所でもあると思う。駅周辺だけでなく、周辺地域の情報が発信されていくことを考えると、運営組織は色々な地域の方々が関わりつつ、コアチームが色々な意見を聴きながらまとめていくような状態が良いと思う。情報発信なので最終的に人に伝わらないといけないので、メディアがいると良いだろう。例えば、ラジオ放送局が駅前広場にあるとか。情報発信の場として機能していくことも大事だろう。

一般的には整備した後に運営の話が始まる。先に運営事業者を決めて、設計や運営を考えていく進め方は画期的だと思う。運営者が運営を開始するまでに時間があるので、運営者と一緒に社会実験を行いながら運営のトライアルをやり続けると、運営を開始する時には素晴らしいチームになっていると思う。

●清水座長

お話を聞いていると思いだしたことがある。ばら祭りという大きなイベントが開催されている。ばら祭りの時は非常に多くの人々が回遊している。社会実験と捉えることもできるだろう。青年会議所からばら祭りのことを少しお聞かせいただきたい。

●福山青年会議所

ばら祭りは戦後復興の象徴であるばらの展示会から始まったお祭り。1968年に初めて開催され、1971年から福山青年会議所が実行委員長を輩出し、現在に至っている。青年会議所として深く関わっている。コロナ禍においてもなんとか歩みを止めずにWEB開催をするなどしてきた。昨年からは現地で開催することができた。多くの方々の笑顔が咲き誇るお祭り。他市から訪れた方々にも喜ばれている。来年からの方向性については議論をしているところ。駅前再生というキーワードもある。備後瀬戸内を知っていただく良いチャンスです。ばら祭りを通して、人の流れを考え直していきたいと考えている。多くの若者が進学や就職で市外に出ていかれるが、福山に戻ってきた時に福山の素晴らしさに気づいてもらえるようにしたい。青年会議所も議論に加えていただき、未来のこどもたちのために、より良いまちを残していきたいと考えている。ばら祭りという手法を最大限活用して、まちの未来のために頑張っていきたい。

●清水座長

社会実験だと見立てればいいと思う。2年後には世界バラ会議がある。前哨戦として、次回のばら祭りをどのように開催するか。駅前の再生からふくまちエリアの再生、更に南側へ拡大していくことが、ばら祭りを通して実現できると良いだろう。今、ふくやまのばらを育てている。元気に育っている。2度花が咲いた。最近のばらは、ばら祭り時だけでなく、何度でも咲く。ばらはもっと日常化できると感じた。是非、みなさんで四季咲きのばらを普及していったらどうかと思う。

●ひろぎんエリアデザイン株式会社

遺構について。福山城の中に駅があるという意識をしたうえで、遺構を生かすためにも全面的な広場化をめざした方が良いという意見は正にその通りだと思う。遺構の活用によって生まれる段差については、西村委員のデザインのイメージを聴いて安心したが、遺構を生かす規模が気になっている。さりげなくという意見もあったと思うが、あまりにもさりげな

いと迫力が無くなるし、逆に規模が大きすぎると催しなどのにぎわいに影響が生まれるだろう。周辺の建物などを含めた景観との調和の問題もある。デザインについては専門家の意見も必要になるだろう。道路をつくと遺構の活用が制限されるという説明もあったことから、全面広場化に向けて進むと思うが、ビジュアルを示してもらえれば、そこから更に議論が進んでいくだろう。

●清水座長

確かに次の段階ではビジュアルが必要になるだろう。来年の2月に協議会を開催する予定。事務局で検討してもらいたい。

●三谷繭子

駅前広場が子ども達にとっての原風景となる場所になってもらいたいと思っている。小さな子どもがいる家庭にとって、中央図書館まで歩いて行くのはちょっと遠い。交流広場で遊んだり、友達と合ったりできれば、小さいときから交流広場に親しむことができ、思い出になっていくと思う。福山のまちづくりの中で、子どもや女性の声をどのように聴いていくのか。ステークホルダーだけの議論になることを懸念している。まちづくりに意識を向けていない人達も日常の利用者になる。そういう方たちにどのようにアプローチしていくのか、お考えがあればお伺いしたい。

●建設局参事

2020年度～2022年度にアンケート調査を実施した。2020年度は男女別・年代別に無作為抽出した4,000人を対象とした。2021年度～2022年度については、Webアンケート及びアンケート用紙での調査を実施。市の公式LINEを利用したり、図書館や各支所に配置することで周知を図った。回答者数は2021年度が5,424人、2022年度が5,568人であり、双方、女性の回答率は6～7割という状況だった。

●三谷繭子

関心が高いことがよく分かる。テキストのアンケート調査だけでなく、具体的な利用方法のあり方については、対話でコミュニケーションも大事になるだろう。リアルで自由に意見を言える場も設けて頂きたい。女性に限らず必要なことだと思う。

●清水座長

その通りだと思う。大賛成。全体的に男女比率が地方都市によくあるバランス感覚のように感じる。色々なことが同じ傾向があると思う。子どもの世話があるため、子育て世代の人たちがこのような場に出てくることは大変なこと。シンポジウムなどを開催する時には託児所機能を用意しながら開催するなども考えられる。女性の意見は非常に大事。男性の方が

発言機会が多い。女性は地方都市の場合少ない。バランスをかいってしまう。大事な意見を聴き洩らしていることが多々あるように思う。時間が来たので、意見交換はここまでとする。

《閉会挨拶》

●建設局参事

非常に活発な意見をいただき、ありがとうございました。2021年10月に第1回の協議会を開催した。第1回の協議会では国土交通省中国地方整備局からもご参加いただき、同年9月30日に公表した「駅まちデザインの手引き」をご紹介いただいた。これは国の有識者会議で取りまとめたもの。本日の資料にも「一体的で柔軟な運営」と記載しているが、結論としては、駅と駅前広場だけではなく、周辺のまちもふくめて一体的に考えていくことが大事だということ。常々、座長から敷地だけで考えない事が大事だと言われている。基本計画の中にそういった考え方を示していきたいと思っている。本日はありがとうございました。

●事務局

これをもちまして、第5回福山駅前広場協議会を終了いたします。次回の開催については、来年度を予定しております。日程につきましては、後日、調整させていただき、ご案内いたします。本日はありがとうございました。

以上